

2 平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

1 調査の目的

- (1) 子供の体力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象とする児童生徒

国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒を対象。

- (1) 小学校調査
小学校第5学年、特別支援学校小学部第5学年
- (2) 中学校調査
中学校第2学年、中等教育学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年
ただし、特別支援学校及び小・中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒については、その障害等を考慮して、参加の是非を適切に判断。

3 調査事項

- (1) 児童生徒に対する調査
 - ア 実技に関する調査（測定方法等は新体力テストと同様）
[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ（中学校はハンドボール投げ）
（※中学校は、持久走か20mシャトルランのどちらかを選択）
 - イ 質問紙調査
・運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査
- (2) 学校に対する質問紙調査
・子供の体力向上に係る取組等に関する質問紙調査
- (3) 教育委員会に対する質問紙調査
・子供の体力向上に係る施策等に関する質問紙調査

4 調査実施日

- (1) 実技調査実施期間：平成27年4月から7月末までの期間
- (2) 児童生徒質問紙調査：調査票到着から7月末までの期間
- (3) 学校質問紙調査実施期間：調査票到着から7月末までの期間
- (4) 教育委員会アンケート実施期間：調査票到着から6月30日までの期間

5 調査校数

- (1) 小学校 20, 477校
- (2) 中学校・中等教育学校 10, 578校

6 大分県児童生徒の状況

(1) 調査校数・児童生徒数

- ① 小学校 (281校、男子4,949名、女子4,705名：特別支援学校含む)
- ② 中学校 (136校、男子5,048名、女子4,835名：特別支援学校含む)

(2) 体力合計点による全国順位 (資料1)

- ① 小学校5年男子 8位 (九州1位) (参考H21:27位) 過去最高
- ② 小学校5年女子 10位 (九州1位) (参考H21:37位) 過去最高
- ③ 中学校2年男子 11位 (九州2位) (参考H21:38位) 過去最高
- ④ 中学校2年女子 23位 (九州5位) (参考H21:46位) 過去最高

(3) 全国平均以上の項目数 (平成26年度調査との比較) (資料2)

- ① 小学校5年男子 7 (H26:8)
- ② 小学校5年女子 7 (H26:6) 過去最高
- ③ 中学校2年男子 6 (H26:4) 過去最高
- ④ 中学校2年女子 4 (H26:2) 過去最高

(4) 各調査項目の結果 (資料3) (資料4)

- ① 小5男女は、「50m走」を除き全国平均を上回った。
- ② 小5女子は、「上体起こし」がH20の調査開始以降、初めて全国平均を上回った。
- ③ 中2男子は、「長座体前屈」「シャトルラン」がH20の調査開始以降、初めて全国平均を上回った。
- ④ 中2女子は、「握力」「立ち幅とび」がH20の調査開始以降、初めて全国平均を上回った。

(5) 体力総合評価 (資料5)

- ① 総合評価がD、Eとなる低体力層の児童生徒の割合は、中2女子Eを除いて全国平均、過去大分県平均より少なかった。
- ② 総合評価における(A+B)-(D+E)値は、全て全国平均を上回り、過去最高を記録した。
- ③ 中学生の(A+B)-(D+E)値は、男女とも昨年の大分県平均を7ポイント以上上回った。

(6) 児童生徒質問紙による調査結果 (資料6)

- ① 小学生は、男女とも1週間当たりの運動実施時間は全国平均を上回った。
- ② 1週間当たりの総運動時間60分未満の割合は、小5女子を除き全国平均を下回った。
 - (1) 小5男子 6.1% (全国 6.6%)
 - (2) 小5女子 14.9% (全国 13.0%)
 - (3) 中2男子 5.0% (全国 7.1%)
 - (4) 中2女子 17.8% (全国 21.0%)

(7) 学校質問紙による調査結果（資料7）

- ① 小学校においては、「体力・運動能力向上の目標設定」、「家庭へ体力向上に係る説明・呼びかけ」、「調査結果を踏まえた授業の工夫・改善」、「担当教員以外との調査結果の情報共有」の項目で全国平均を10ポイント以上上回った。
- ② 中学校においては、「保健体育の授業以外で体力・運動能力向上の取組」、「体力・運動能力向上の目標設定」、「保健体育授業以外に運動時間確保の取組の有無」、「生活習慣改善の取組の有無」、「家庭へ体力向上に係る説明・呼びかけ」、「調査結果を踏まえた授業の工夫・改善」の項目で全国平均を10ポイント以上上回った。

7 考察

(1) 成果とその分析

- ① 「体力合計点による全国順位」や「各調査項目の結果」などから、本県児童生徒の体力は確実に向上していることが明らかとなった。
- ② 小学生については、男女ともに九州トップを達成した。
- ③ 中学生については、中2男子11位（H26：18位）、中2女子23位（H26：36位）と大幅な向上がみられた。
- ④ 総合評価がD、又はEの児童生徒の割合は減少しており、全体的な体力の底上げが図られていると判断できる。
- ⑤ 本県では、各学校が体力向上のための目標を設定し、組織的・計画的な取組を行っており、児童生徒の運動実施頻度が高まってきた。児童生徒の1週間当たりの運動実施時間は、全国平均を小5男子で約45分、小5女子で約15分、中2男子で約30分上回っており、このことが実技調査の結果に反映されたものと考えられる。

(2) 課題及び今後に向けて

- ① 調査項目については、小・中学生ともに50m走が課題である。「走る・歩く」活動を取り入れた取り組みを推進していきたい。
- ② 1週間の総運動時間60分未満の割合は、小5女子14.1%（全国13.0%）、中2女子17.8%（全国21.0%）であった。昨年度に比べ、それぞれ割合が1%減少したものの、小・中ともに女子の割合が高いため、今後さらに減少させていきたい。
- ③ 中2女子については、1週間当たりの運動実施時間が全国平均並みであった。中2男子や小学生は全国平均を上回っていることから、同様に増加させたい。
- ④ 今後の目標としては、全国順位や全国平均との比較に終わらず、子どもの体力がピークと言われる昭和60年頃の水準を目指していきたい。